

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-59	高等学校	国語	現代の国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	現国・708	現代の国語		

1. 編修の基本方針
<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能を培い、確かな国語力を育成する。 ● 言葉の働きについて理解を深めるとともに、言葉を通して社会と関わる態度を養う。 ● 論理的に考え、適切に伝え合うための、確かな思考力・判断力・表現力を培う。 ● 現代社会の諸問題に対する幅広い関心と、言語文化の担い手としての自覚を育む。

2. 対照表		
図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
読み深める		
「読む」と「書く」	言葉が持つ価値と、言葉の使い手である自身について認識を深め、個人の創造性や自主自立の精神を養えるようにした。(第2号)	p. 14～p. 19
社会と文化	他国の文化を理解することの難しさや国際社会で求められる姿勢について考察できるようにした。また、自国と他国の文化比較を通して、自国の文化の特徴について理解を深められるようにした。(第5号)	p. 20～p. 35
新しい視点	多角的に物事をとらえたり、身近な物事にも疑問を持ったりすることを通して、幅広い知識と教養を身につけることの重要性を認識できるようにした。(第1号)	p. 36～p. 65
ことばの働き	人間の思考や認識を支えるという言葉の働きについて理解し、言葉を用いて主体的に思考する力を培うことができるようにした。(第1号)	p. 66～p. 85
環境と科学	自然を大切にすることについて考察し、保全に寄与する意識を高められるように配慮した。また、科学・文学・言語といった文化と人間との関係について理解を深められるようにした。(第4号・5号)	p. 86～p. 105
人間と時間	時間についての考え方を述べた二つの文章を用いて幅広い知識と教養を養うとともに、抽象的な思考を通して真理を追究する態度を育めるようにした。(第1号)	p. 106～p. 123
認識の枠組み	現代社会の問題点を理解し、そこで求められる責任や他者を敬い協力することの重要性と個人の創	p. 124～p. 146

	造性について考え、社会の発展に寄与する態度を養えるようにした。(第2号・第3号)	
考えを表す		
問題を提起する	感情と理性について取り上げた文章の読解を通して、公共の精神に基づき、社会の発展に寄与する態度を養えるようにした。(第3号)	p. 148～p. 151
対比する	批判的読解を試みることにより、主体的に文章を読み自身の考えを論理的に表現する批評精神を養えるようにした。(第2号)	p. 152～p. 155
賛否を述べる	命は自分のものか否かという、正解のない問題に取り組むことで、生命倫理について考察を深められるようにした。(第4号)	p. 156～p. 160
解釈を述べる	事実を多面的に表現することを通して、豊かな言語運用能力を身につけるとともに、自身のものの見方を省察することができるようにした。(第1号)	p. 161～p. 165
具体例を示す	地球環境の保全における重要な問題点について、自身の生活と具体的に関連づけて考察できるようにした。(第4号)	p. 166～p. 171
意見を述べる	現代社会の問題について異なる視点から述べられた二つの文章の読解を通して、幅広い知識を身につけるとともに、自己と社会との関わり方について考察できるようにした。(第1号・第3号)	p. 172～p. 179
関連づける	絵画鑑賞についての文章の読解を通して、教養と豊かな情操を身につけるとともに、文化を尊重する態度を養えるようにした。(第1号・第5号)	p. 180～p. 185
実用の文章	実社会にある素材を用いて、相手や目的に応じた文章を書いたり、資料を的確に分析したりする活動を通して、主体的に社会に参画する態度を養えるようにした。また、SDGsに関する活動を通して、自国と他国を尊重し、国際社会の平和と発展に貢献することの重要性について考えを深められるようにした。(第3号・第5号)	p. 186～p. 208
表現編		
話し言葉の技術	自身の思いを他者にわかるように伝えたり、他者と共感し合ったりすることの大切さを、活動を通じて理解できるようにした。(第3号)	p. 210～p. 213
書き言葉の技術	自身の考えを深めたり、適切に表現したりするための基本的な方法を身につけ、さまざまな事柄に対して主体的に取り組む態度を培うことができるようにした。(第2号)	p. 214～p. 225
言語技術の実践	調査結果および自身の考えをまとめる活動を通して、知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養えるようにした。また、グループ活動によって個々の責任をはたす大切さを学ぶことで、主体性と他者を尊重する態度を身につけ、社会の形成に	p. 226～p. 242

	参画し、その発展に寄与できる力を養えるようにした。(第1号・第3号)	
資料編・見返し		
グラフ・実用文の読み方	実社会で広く用いられている資料や文章の特徴を学ぶことで、社会においてさまざまに発信されている情報を、自身の生活と関連づけながら正しく理解できるようにした。(第3号)	p. 244～p. 247
評論キーワード	主に論理的文章・資料などで用いられる言葉について、その意味やつながりを知ることで、抽象的かつ論理的な思考を深め、自国および他国の文化・社会への理解と国際社会への発展に寄与する態度を養えるようにした。(第1号・第5号)	p. 248～p. 263
見返し	各題材に関連した資料などを通して、より学習の理解を深め、幅広い知識と教養を養えるようにした。また、実社会でも必要とされる情報探索の方法を知ること、主体的に学ぶ姿勢を身につけ、個人の能力を高められるようにした。(第1号・第2号)	前見返し 後見返し

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 学校教育法第51条2号「一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること」を踏まえ、教材の読解にとどまらず、教材に関連したテーマの理解を深めたり、基本的な言語技術を確認したり、読書活動につなげたりできるような「解説」(コラム)を随所に掲載した。
- 学校教育法第51条第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材末には、現代社会のさまざまな話題や問題を多角的な視点から考察できる設問や言語活動例を多数用意した。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
102-59	高等学校	国語	現代の国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
104・数研	現国・708	現代の国語		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 全体

- ① 「読み深める」「考えを表す」「表現編」「資料編」の4編で構成し、どの編においても、さまざまなテーマの論理的文章・実用的文章を掲載した。
- ② 「チェックポイント」コーナーを設けて、文章を読んだり書いたりする際に身につけておきたい知識・技能を解説した。

✓ チェックポイント [1]

指示語

1 指示語の働き

会話や文章の中では、ある物事や内容が別の言葉で示されることがある。その代表的な表現として指示語がある。指示語とは、話し手と聞き手の関係を基準にして物事を示す働きをする語で、主として左の表のようなものがある。語の最初に、「こ・そ・あ・ど」がつくため、「こそあど言葉」とも呼ばれる。

指示語の使い方には、目の前のものを直接に指す場合と、話している話題の中の何かを指す場合とがある。

こ～	これ、この、こう、こんな
そ～	それ、その、そう、そんな
あ～	あれ、あの、ああ、あんな
ど～	どれ、どの、どう、どんな

- ③ 発表したり話し合ったりする活動を通して、教材のテーマについて理解も深めることができる「ズームアップ」コーナーを設けた。

ズームアップ

情報とメディア

1 「情報」とは何か

「情報」とは、何だろう。現代社会では一般的に、インターネットに代表されるような、テクノロジーに支えられたメディアによって伝達されるもの全般を指して「情報」と呼ぶ。

ちなみに、「情報」という日本語は「敵情についての報告」という軍用語に由来すると言われている。「情報」とは元来、誰にとつてどのような価値を持つ内容かという点に重きが置かれた言葉なのだ。その語源から考えても、その人にとつて有益かどうかといった利己的な性格を持っていると言えそうだ。

2 メディアの変容

「メディア（媒体）」とは、もともとは「中間にあるもの」を表す言葉で、大衆に同時に情報を大量伝達する媒体を「マス・メディア」という。メディアの発達によって、私たちは新聞や雑誌

言語活動

具体的な話題について、新聞報道などのマス・メディアの記事とインターネットで個人から直接発信された情報をそれぞれ集め、その違いについて話し合ってみよう。

関連書籍

- 梅村忠夫 『情報の文明学』 高度経済成長期の日本の情報産業の発展と諸現象を「情報産業論」を核として考察する。現代の情報社会においても有益な指摘が多く見られる。
- 西垣通 『こころの情報学』 情報学を概観しながらで情報の本質を生命情報とし、ヒトの心やパーソナルな世界の心の様相などを中心に、情報の意味について論じる。
- 内田樹 『街場のメディア論』 テレビ・新聞・出版といったマス・メディアが陥った危機的状況の原因を探り、「贈与と返礼」の関係性からメディアの社会的存在意義を明らかにする。
- 猪谷千香 『その情報はどこから?』 私たちの行動や思考に影響を与えるインターネットの情報に対し、何をどう選べばよいのか、ネット社会と向き合う際の意識のありようを説く。

53 | 新しい視点

④ 本編教材との比較読解ができる文章を掲載した「探究の扉」コーナーを設けることで、資料を比較したり関連づけたりする力を養えるようにした。

探究の扉
 —— 比べ読み ——

自然との連帯

内山 節

私たちが自然と連帯するとは、どのような自然に対してなのか。現状の自然を守ることが自然との連帯なのか。それとも変化していく自然と連帯することが重要なのか。

自然と人間の歴史を見ると、そこでは三つの関係が複雑に絡み合ってきた。一つは相互にいかなる害も与えないような共存の関係である。たとえば人間が川から水を汲み、ささやかに山菜や茸、マキなどを採取したとしても、自然に大きな変動を与えることはなかったように、である。第二に相互に恵みを与える、という関係があった。自然は人間に対してさまざまな恵みを与えるが、逆に人間が溜池や

10

政治って面倒くさくない？ たまにはクラスで修学旅行先を決めるときだって、みんな積極的に意見を言うかな。それよりも下を向いてスマホを見て、ポチッと押し投票した方が簡単じゃないですか？

全員（激しく頷く）

Ａさん 顔を見て話し合うのが大事とは思いますが、どうしても毎回意見がぶつちやう人っている。あんまりぶつちやうなら、携帯使った方がいいかも……。

宇野 みんなの意見が最初から同じなら、政治なんていらないよね。どう見ても違う意見があるし、必ずしも思

探究の扉
 —— 比べ読み ——

未来をはじめ

宇野 重規と中学生・高校生との対話

⑤ 各教材の見出し付近に掲載した二次元コードを通じて、さまざまな角度から本編教材の理解を深めることができる「学習用コンテンツ」を多数用意した。

(2) 読み深める

・ 現代の社会生活に関するテーマについて述べた文章、図表や資料を用いた文章など、さまざまな形式の文章に触れられるよう配慮した。

社会と文化

コミュニケーション能力とは何か

内田 樹

何年か前にフランスの地方都市に仕事でしばらく滞在したときの話です。スーパーに行ってマグカップを買おうと、レジに行ったらレジの女性店員に何か訊ねられました。なんとなく聞き覚えのある単語なのですが、意味がわからない。

「え？ 何です？」と聞き返してみたが、それでもわからない。二度三度と「え？」を繰り返しているうちに店員は諦めたらしく、肩をそびやかしてマグカップを包み始めました。どうも気持ちが片づかないので、カップを手渡された後に、レジの上に身を乗り出して、ひとことひとことゆっくり噛みしめるように、「先ほど、僕に何を訊いたのですか？」と問いかけました。すると店員もゆっくり噛みしめるように、「郵便番号を訊いたのだ。」と答えた。「なぜ、郵便番号を？」と重ねて訊くと、「どの地域の人がどんな商品を買っているのか、データを取っているのだ。」と教えてくれた。

郵便番号 (code postal) というのは基本的な生活単語です。もちろん僕も知っています。

ノ（卵形のボール）を指差して、「これはヘクというのよ。」と教えた（図2）。どちらのグループの子どもも、「これはヘクというのよ。」と新しいことは聞く前には、ターゲットのことを「ボール」と呼んでいた。

このとき用意したモノは、①「ヘク」と教えられたターゲットと形も模様もそっくりのモノ、②名前をつけられていない球形のモノ、③典型的なボールの形をしたモノ、④ボールとは呼べないモノ（靴）である。そして、ターゲットを指差して「これはヘクというのよ。」と知らないことを教えた後に、「じゃあ、ヘクはどれ？」と子どもに尋ねた。同時に、「ヘク」ということは①から③のどのモノを指すかも聞いてみた。

すると、二つのグループの子どもたちは異なる反応を示した。グループの子どもたちは、「ヘク」

図 2

図 1

(3) 考えを表す

・多彩な言語活動を通して、自分の考えを論理的に表現する力、目的に応じて書く力を身につけられるようにした。

言語活動

1 「ものは言いよ」(二面・上頁)について、次の(1)・(2)にそれぞれ取り組んでみよう。

(1) 辞書的な意味を調べてみよう。

(2) 次のA新聞とB新聞の記事は、どちらも同じ都市について書かれており、A新聞とB新聞とは、読み手に逆の印象を与えるように述べられているとする。A新聞の記事から、B新聞の記事を予想して書いてみよう。

A新聞

この都市の人々は、国の景観政策のために、古い建物で生活している。自宅できえも、必要最低限の修理や改築しかできない。建築物の高さやデザイン規制が厳しいために、自由に建てることができないのだ。国の都市計画によって伝統的景観が保持される一方、同様の住居が隙間なく並ぶ風景は画一的で窮屈な印象も生み出している。

B新聞

165 解釈を述べる

実用の文章2
資料を分析して考えをまとめる「アンケート調査」

下の【資料1】は地域再生をめぐる課題に関して、全国の市町村にアンケートをとった結果をグラフにしたものである。左頁の【資料2】は、「資料1」の地域再生をめぐる課題について、市町村の人口規模別に集計した結果をグラフにしたものである。右頁以降の【資料3】【資料4】は、「今後の地域再生・活性化において特に鍵となるポイント」について回答を求めたものの結果である。

地域再生・活性化に関する全国自治体アンケート調査

- ・2010年7月実施
- ・(1)全国市町村の半数(無作為抽出)および政令市・中核市・特別区で計986団体と、(2)全国47都道府県に送付。
- ・(1)については返信数597(回収率60.5%)、(2)については返信数29(回収率61.7%)。
- ・【資料1】～【資料4】は(1)の市町村分。

出典：松井良典「創造的福祉社会」

【資料1】 地域における特に優先度の高い政策課題(複数回答可)

1) 人口減少や若者の流出	317
2) 財政赤字への対応	154
3) 格差・失業や低所得者等の生活保障	37

(4) 表現編

・汎用的な言語能力を身につけるための基本知識を解説し、適宜「読み深める」「考えを表す」の内容と関連をもたせ、相互に効果的な学習ができるようにした。

聞くトレーニング 情報の聞き取り方

目標

- ▼ 目的に応じて情報を聞き取る。
- ▼ 注意深く正確に聞く。

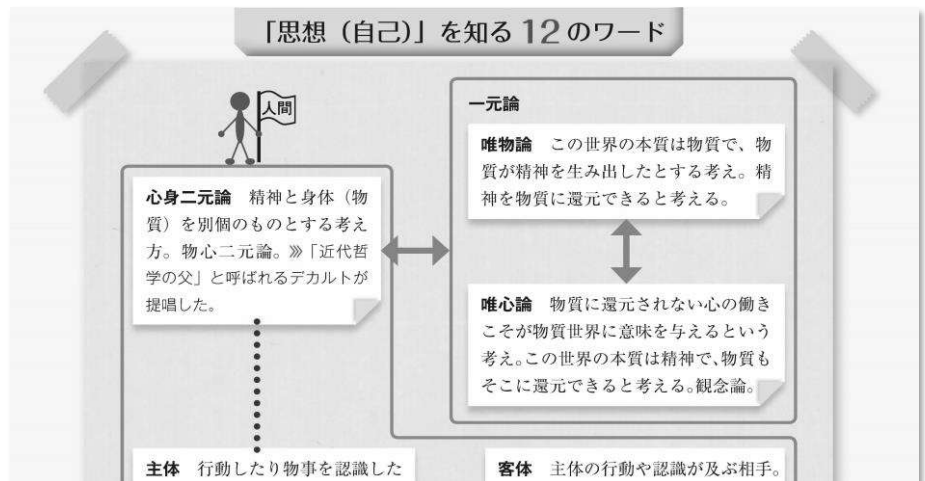
1 「聞き取る」ために

文章と異なり、音声はその場で消えてしまう。情報を含む音声聞き、その内容をその場で理解するには、訓練が必要である。つまり「聞こえる」(hear)ではなく「聞き取る」(listen)ためのトレーニングだ。その代表的なものに「スキミング」(大意をつかむ方法)と「スキヤニング」(具体的な情報を探す方法)がある。



(5) 資料編

・論理的な文章や、実社会の具体的な場面で用いられる言葉について、その意味やつながりを知ることで、抽象的かつ論理的な思考を深められるようにした。



2. 対照表

図書構成・内容		学習指導要領の内容									該当箇所 [頁]	配当時数		
単元	教材	知識及び技能			思考力, 判断力, 表現力等							話す・聞く	書く	読む
		(1)	(2)	(3)	A 話すこと・聞くこと		B 書くこと		C 読むこと					
		(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)				
「読む」と「書く」	書けない日々	ウ・エ・オ							ア	ア	14			1
	評論の読み方		オ								19			
社会と文化	コミュニケーション能力とは何か	ウ・エ・カ							ア・イ	ア	20			1
	【チェックポイント1】指示語	カ									27			
新しい視点	水の東西	ウ・エ	イ						ア		28			1
	【ズームアップ】文化	エ		ア	イ	ア					34	1		
	「わらしべ長者」の経済学	イ・ウ・エ				エ			ア	ア	36	1		1
	ポスト・ブライバシー	ウ・エ・カ							ア・イ	イ	44			1
	【ズームアップ】情報とメディア		エ	ア	ア	ア					52	1		
	【チェックポイント2】文脈の理解	カ									54			
	【チェックポイント3】接続語	オ	ア								55			
	政治的思考	ウ・エ	ア						ア・イ	イ	56			
ことばの働き	【探究の扉】未来をはじめる		ア		イ	ア			イ		62	1		1
	ものとことば	ウ・エ	イ						ア		66			1
	【ズームアップ】どこにも蝶などいない	ア		ア	ア	エ					74	1		
	知識のシステムをつくる	ア・ウ・エ	ウ						ア・イ	ア	76			1
	【チェックポイント4】列挙		イ								85			
環境と科学	動物園というメディア	ウ	ア・イ		ア	エ			ア・イ		86	1		1
	【探究の扉】自然との連帯		ア						イ	ア	92			
	【ズームアップ】環境問題のこれから	オ		ア	ア	エ					95	1		
	科学コミュニケーション	ウ・オ	ア						ア・イ	イ	96			1
人間と時間	【チェックポイント5】一文要約	オ	ア						ア		104			
	時間と自由の関係について	ウ・オ	イ						ア		106			1
	時を編む人間	ウ・エ・カ	ア						ア・イ	ア	114			1
	【ズームアップ】近代と時間の関係	カ		ア	イ	ア					122	1		
認識の枠組み	【チェックポイント6】文末表現	オ									123			
	浪費を妨げる社会	ウ・エ							ア		124			1
	他者を理解するということ	ウ・エ							ア		131			1
	【ズームアップ】自己と他者の理解とは	カ		ア	オ	エ					139	1		
問題を提起する 対比する 賛否を述べる 解釈を述べる 具体例を示す 意見を述べる	白	ウ・エ							ア		140			1
	感情暴走社会の由来	オ						イ・ウ	ア		148		2	
	デジタルメディア時代の複製		ア					イ・ウ	ア		152		2	
	命は誰のものなのか		ア					イ・エ	ア		156		2	
	【ズームアップ】科学と生命を考える	オ		ア	イ	ア					160	1		
	事実なのか考えなのか	エ						イ・エ	イ		161		2	
	動的平衡の回復		イ					ア・イ	ア		166		2	
	無痛化する社会のゆくえ		オ					イ・ウ	ア		172		3	
	【チェックポイント7】文章構成	オ									178			
	絵を前に思いをめぐらす	エ	ウ					イ・ウ	ア		180		3	
関連づける	【ズームアップ】芸術の価値とは	ア		ア	イ	エ					184	1		
	【チェックポイント8】比較	ア									185			
実用の文章	目的に合わせて表現を工夫する	エ						イ・ウ・エ	イ		186		3	
	資料を分析して考えをまとめる		エ	ア				ア・イ	ウ		190		4	
	課題を発見し解決策を発表する		エ		ア・イ・ウ	エ					195	3		
	コミュニケーションの手段を考える	カ	イ		ア・イ・ウ	ウ					200	1		
話し言葉の技術	文章の構成を工夫して提案する		ア		エ			イ・エ	イ		204	1	2	
	【聞くトレーニング】情報の聞き取り方	イ									210			
	【話すトレーニング】説得力のある話し方	イ									212			
	【文章トレーニング1】文章構造を理解する	オ									214			
	【文章トレーニング2】要約する	オ	ア								216			
書き言葉の技術	【文章トレーニング3】比較する		ウ								220			
	【文章トレーニング4】論証する		イ・ウ								222			
	【文章トレーニング5】意見文を書く	オ	オ								224			
	【実践1】レポート		エ・オ					ア・イ・ウ	ウ		226		6	
	【実践2】プレゼンテーション		エ・オ		ウ・エ・オ	イ					231	3		
資料編	【実践3】ディベート・討議		エ・オ		イ・エ・オ	ウ					236	5		
	グラフ・実用文の読み方		エ	ウ・エ							244			
	評論キーワード	ア・エ									248			
配当時数合計		A 話すこと・聞くこと										24		
		B 書くこと											31	
		C 読むこと												15
		合計												70